

令和4年
1月28日

病害虫発生予報 2月号

茨城県病害虫防除所

農薬危害防止と効果安定のために

土壌くん蒸剤の施用後は、しっかり被覆しましょう。

< 目次 >

I. 今月の予報

【注意すべき病害虫】

イチゴ：ハダニ類	1
促成ピーマン：斑点病	1
促成トマト：葉かび病	2

【その他の病害虫】

イチゴ、促成ピーマン、促成トマト、促成キュウリ	2
サツマイモ基腐病の防除対策（育苗期～植付期）	3

II. 今月の気象予報

最新の農薬登録内容は、農林水産省ホームページの「農薬登録情報提供システム」(<https://pesticide.maff.go.jp/>)で確認することができます。

詳しくは、病害虫防除所へお問い合わせ下さい。

茨城県病害虫防除所 Tel : 0299-45-8200

予報内容は、ホームページでも詳しくご覧いただけます。

<https://www.pref.ibaraki.jp/nourinsuisan/nosose/byobo/boujosi dou2/>



I. 今月の予報

【注意すべき病害虫】

イチゴ

1. ハダニ類

[予報内容]

発生時期	発生量	発生地域
—	やや多い	県下全域

[予報の根拠]

- ① 1月下旬現在、寄生葉率（本年値 18.0%、平年値 16.3%）は平年よりやや高く、発生地点率（本年値 70%、平年値 64%）は平年並である。

[防除上注意すべき事項]

- ① ハダニ類は増殖が速いので、発生が少ないうちに防除を徹底する。
② 薬剤は、薬液が葉裏や葉柄にもよくかかるよう十分な量で丁寧に散布する。また、気門封鎖剤以外については、薬剤抵抗性の発達を抑えるため、IRAC コードの異なる薬剤をローテーション散布する。なお、薬剤散布は、古い下葉を除去してから行うと効果的である。
③ ミツバチや天敵を使用する場合は、薬剤の影響日数等に十分注意する。

促成ピーマン

1. 斑点病

[予報内容]

発生時期	発生量	発生地域
—	平年並～やや多い	鹿行地域

[予報の根拠]

- ① 1月下旬現在、発病度※（本年値 8.8、平年値 5.9）は平年並～やや高く、発生地点率（本年値 100%、平年値 49%）は平年より高い。

※発病度：株ごとの発病程度をもとに算出した数値、最小値は0で最大値は100となる。

[防除上注意すべき事項]

- ① 多湿条件で発生しやすいため、整枝、換気等によりハウス内の湿度を低く保つ。
② 発生が多くなると防除が困難になるため、初期防除を徹底する。
③ 罹病部はできるだけ取り除き、ハウス外に持ち出して適切に処分する。
④ 薬剤散布は、薬液が葉裏にもよくかかるよう十分な量で丁寧に行う。また、薬剤耐性菌の出現を防ぐため、FRAC コードの異なる薬剤をローテーション散布する。
⑤ 天敵を使用する場合は、影響の小さい薬剤を使用する。

促成トマト

1. 葉かび病

[予報内容]

発生時期	発生量	発生地域
—	やや多い	県下全域

[予報の根拠]

- ① 1月下旬現在、発病度*（本年値 2.0、平年値 0.3）は平年よりやや高く、発生地点率（本年値 44%、平年値 2%）は平年より高い。

※発病度：株ごとの発病程度をもとに算出した数値、最小値は0で最大値は100となる。

[防除上注意すべき事項]

- ① 多湿条件で発生しやすいため、暖房、送風、換気等によりハウス内の湿度を低く保つ。
- ② 抵抗性品種であっても発生する場合がありますので注意する。
- ③ 発生が多くなると防除が困難になるため、初期防除を徹底する。
- ④ 罹病部はできるだけ取り除き、ハウス外に持ち出して適切に処分する。
- ⑤ 薬剤散布は、薬液が葉裏にもよくかかるよう十分な量で丁寧に行う。また、薬剤耐性菌の出現を防ぐため、FRACコードの異なる薬剤を用いてローテーション散布する。

【その他の病害虫】

作物	病害虫名	発生予測	発生概況および注意すべき事項
イチゴ	うどんこ病	発生量：平年並 ～やや少ない	1月下旬現在、平年並～やや少ない発生である。
	コナジラミ類	発生量：やや多い	1月下旬現在、平年よりやや多い発生である。
ピーマン 促成	うどんこ病	発生量：平年並	1月下旬現在、平年並の発生である。
	アザミウマ類	発生量：平年並 ～やや多い	1月下旬現在、平年並～やや多い発生である。
トマト 促成	灰色かび病	発生量：平年並 ～やや多い	1月下旬現在、平年並～やや多い発生である。
促成キュウリ	退緑黄化病	発生量：やや多い	1月下旬現在、平年よりやや多い発生である。
	うどんこ病	発生量：平年並	1月下旬現在、平年並の発生である。
	べと病		
	オンシツコナジラミ	発生量：やや多い	1月下旬現在、平年よりやや多い発生である。一部圃場で発生が認められている。

サツマイモ基腐病の防除対策（育苗期～植付期）

本病は、平成 30 年に沖縄県で初確認され、令和 3 年 6 月に茨城県でも発生が確認されました。令和 4 年 1 月現在、24 都道県で発生が確認されています。発生すると防除が難しく、被害が拡大するおそれがあるので、侵入防止と早期発見に努めましょう。

[病気の特徴]

糸状菌（カビ）により引き起こされ、保菌した苗・イモ・残さ（葉や茎の残がい）等が伝染源となる。

[防除対策]

- ・発生地域から種イモや苗を持ち込まない。
- ・苗の増殖にはウイルスフリー苗を用いる。
- ・種イモから増殖する場合は、病害等の発生していない圃場で生産されたイモのみを用い、腐りや傷のない健全なイモを選別して黒斑病対策の種イモ消毒を行う。
- ・苗床は、地温 15℃以上を確保できる時期に適切な土壌水分下で、必ず被覆して土壌消毒を行う。
- ・発生地域から持ち込まれたコンテナ等は、洗浄、消毒してから使用し、作物の残さや土を圃場に持ち込まない。
- ・自分で採苗する場合は、こまめに消毒したハサミを用い、地際から 5 cm以上の位置で採取する。
- ・苗消毒はベンレート水和剤（500～1,000 倍）または、ベンレート T 水和剤 20（200 倍）で 30 分間、苗が薬液に浸るように漬ける（浸漬処理）。苗消毒はいずれかの薬剤で植付前に 1 回までの使用とする。
- ・消毒は必ず採苗当日に行い、薬液は使用当日に調製して翌日以降に持ち越さない。
- ・見かけ上は健全な苗でも保菌している可能性があり、発病リスク軽減のため、ウイルスフリー苗から増殖した場合も、必ず消毒する。購入苗も未消毒の場合は必ず消毒する。

※本病が疑われる症状を見つけた場合は、抜き取り等を行わず、速やかに各地域の農業改良普及センターまでご連絡ください。

Ⅱ. 今月の気象予報

関東甲信地方1か月予報

(予報期間 1月29日から2月28日)

気象庁(1月27日 発表)

<向こう1か月の気温、降水量、日照時間の各階級の確率(%)>

[確率]	要素	予報対象地域	低い(少ない)	平年並	高い(多い)
	気温	関東甲信全域	40	40	20
	降水量	関東甲信全域	30	40	30
	日照時間	関東甲信全域	30	40	30

[概要]

平年と同様に晴れの日が多いでしょう。

<1週目の予報> 1月29日(土曜日)から2月4日(金曜日)

気温 関東甲信地方 低い確率50%

<2週目の予報> 2月5日(土曜日)から2月11日(金曜日)

気温 関東甲信地方 低い確率50%

<3週目から4週目の予報> 2月12日(土曜日)から2月25日(金曜日)

気温 関東甲信地方 平年並の確率40%

農薬を使用する際は

- 1 使用する農薬の「ラベル」と登録変更に関する「チラシ」等を必ず確認し、適用作物、使用方法、注意事項等を守りましょう。
- 2 散布時には、周辺作物に飛散(ドリフト)しないよう注意しましょう。
- 3 農薬の使用状況を正確に記録しましょう。
- 4 薬剤抵抗性の発達を抑えるため、作用機構分類(FRACコード、IRACコード)の異なる薬剤を用いてローテーション散布しましょう。
- 5 農薬の使用後は、散布器具やホース内等に薬液が残らないように良く洗浄しましょう。